

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：郡上市地域共生圏協議会

活動地域：岐阜県郡上市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

地域資源を活用して、
「経済×社会×環境」を実現しよう

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

観光立市GUJO

郡上市循環共生圏



地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

①郡上市地域循環共生圏の考え方の共有

- 地域プラットフォーム構築を目指して、4回の勉強会を開催した。
- 勉強会は、参加者同士が活動や考え方を共有できるような仕組みにした。
- 地域循環共生圏の考え方を共有し、それぞれが参画できる範囲を出し合えた。

②地域グリーン電力のブランディング

- 再エネ事業の協働そのものが実現できていないためか、ブランド化は、夢レベルの話に終始したが、参加者が電力事業やブランド化に前向きであることが分かった。

③地域事業体の検討

- 勉強会で、「不採算だが社会的に重要な活動や事業にも利益分配ができる仕組み」としての事業体の役割は共有できた。今年度は、具体的な方法の検討までには至らなかった。

④地域課題解決のための仕組みづくり

- 意見交換を通じて、仕組みづくりに向けた検討のための、できるだけ多くの人が自分事として考えられるテーマが固まった。次年度からは、具体的に検討していく。

⑤地域への発信

- 大きな会場を借りることが困難で、勉強会の日程や場所が不安定だったこともあり、開催案内が難しかった。
- 記録だけでなく、感想も含めて、勉強会の内容や様子を、参加者が自主的に、自分のHPで配信してくれた。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	地域の経済循環を賦活する「再生可能エネルギー活用事業体」設置事業		
	概要	郡上市の再生可能エネルギーポテンシャルは消費量の2.4倍。しかし、生産量県内一の木質バイオマスの市内エネルギー利用は限定的。こうした潜在資源も活用して、経済循環を賦活させ、温室効果ガス排出抑制にも貢献する「創エネ×省エネ×エネマネ」を市内で推進する地域事業体を設置する。 <u>勉強会では、参加者でもある市内の小水力発電事業主に話題提供を依頼したことで参加者の意識共有ができた。</u>		
	課題・ボトルネック	今は、意識共有と、必要だという機運の高まりまでの段階。 <u>実働に切り替えるきっかけが課題。</u>	力を借りたい人物・企業像	郡上市 。市内調査や情報整理の結果や、市の方針の共有など、市民活動への勇気づけを増やしたい。
2	事業名	観光も日常生活も充足させる「郡上型Maas」推進事業		
	概要	次年度からは観光を中心に据えて勉強会や事業検討を進め、事業実施に向かうことに決めた。郡上市の観光客は、自家用車利用者が多く、より広い市場の獲得には公共交通の整備が必要だと共有した。現在の第一顧客である市内の高齢者や高校生などの通学者の <u>利便性を高めて利用者を増やし、サービスを広げていくことを共有した。</u>		
	課題・ボトルネック	現状では赤字でしかなく、複合サービスを検討しているものの <u>実現の原資調達</u> が課題。	力を借りたい人物・企業像	目指す姿に記載した「地域事業体」。ただし、これから作るので、 <u>参画する地域内外の企業。</u>
3	事業名	観光に新しい価値を生み出す「E-MTB（電動アシスト付きスポーツ自転車）移動×観光」イノベーション事業		
	概要	市域の約90%が山林の郡上市。「林道」「作業道」「農道」「古道」などは整備されており、アクティビティ目的の観光客が多い郡上市の観光に貢献すると考えられる。自家用車利用観光によるストロー現象も観光に打撃を与えていたが、自転車利用観光は、導線に関わる店舗だけでなくインストラクターやガイドなどの仕事にも結び付き、 <u>関係者の裾野の広がりが期待できることが共有できた。</u>		
	課題・ボトルネック	自転車仕様規制などの制度。導線自体をアクティビティにする <u>導線の整備</u> が課題。	力を借りたい人物・企業像	郡上市 。観光立市推進の一環として特区制度などの協力を得たい。

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 勉強会で、参加者が取り組みや思いを含めた自己紹介をしたことで、同じ思いを持ちながら、これまであまり接点がなかった人たちにつながりができた。
- 1つのテーマについても、いろいろな活動家が集まることによって、今までになかった発想に出会うことに面白みを感じた人が継続的に勉強会に参加してくれた。

地域のコンセプトを描く！

- 初めに、曼荼羅および、ビジョンやコンセプトを伝えて、参加者がそれぞれに自分の事業や活動が関わりそうなことを語ってくれたことで、一体感が生まれた。
- 主催者側で、毎回、テーマを決め、イントロダクションに工夫をしたことによって、参加者がテーマに沿って、地域のありたい未来と自分の活動や、参画できそうなことを話すことができた。

事業のストーリーを語る！

- 「事業のタネシート」には、本当に具体的なことを記載する必要があり、ひとつひとつを協働で考えるための指針として役立った。
- テーマを決め、明らかに関心がある人と検討した結果から、関連がありそうな人に声をかける方法をとらなければ、あまり関心がない人が時間を持て余してしまう傾向にあるなど、事業を検討する時のコツが分かった。

地域の目標を立てる！

- 上位計画と自分たちの活動との関連を再確認できた。
- 取組と目標の関連の見える化ができた。
- 短期目標と長期目標の違いや、つながりを再確認できた。

今年度の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

今年度、地域で取り組んだ過程

- ドイツのライン・フンスリュック郡での地域事業体の映像を共有し、勉強会参加者に、「地域事業体」の必要性への共感や取組みへの意欲は見られた。
- 再生可能エネルギーを原資とした事業体の形の共有もできた。
- 郡上市には、個々に地域事業を始めた活動家が多く、活動家同士は個人的に面識はあるものの、事業連携はあまり見られなかったため、初めに曼陀羅図を示して、個々の参加者が、自分の理解の範囲で、参画できそうなことを少しずつ話し、全体で理解を深めながらの地域資源探索に時間をかけた。

ボトルネックとなったこと、困ったことや難しかったこと、新たに見えてきた課題など

- まだ、相互に良い関係性を持った繋がりの方をもう少し深める必要を感じる。
- 参加者から出たアイデア、意見をどのようにリンクさせるのか、恣意的にならない程度の誘導の必要があるとは感じたが、難しいと感じた。
- どこから、どんな風に、スタートアップ資金を調達するのかが、現実的な課題。
(資金の目途が立たないと、具体的にないと感じた)
- 1回の勉強会で、具体的な事業を深めようとすると、自分にはあまり関係がないと感じる人が離れてしまいそうな気持から、散漫になってしまうことがないようにすることに苦慮した。

今後の展望

優先的にチャレンジしたいことは、次のとおりです。

「郡上市地域共生圏協議会の組織化」

これが、後に、地域事業体になっていくことを想定しています。

そのために…

- 前年度のまとめとして共有することから始め、積み上げるような進め方をしていきたい。
- ワークを含めた勉強会の場で参加者が出してくれた意見と、曼荼羅図に描いた事業のすり合わせを行い、勉強会の場で、あなたの力は、この事業で生かせないかと思う、あなたは…、と具体的にイメージできる形で提案してみたい。
- 大きなゴール設定とそれに向かうために小さなゴールをしっかりと作りこみたい
と考えています。

そこから、各事業のタネを元気に芽吹かせ、育てていきます。